



第99号



発行 宇治市教育委員会
〒611-8501
京都府宇治市
宇治琵琶33番地
TEL (0774) 21-1879
<https://www.city.uji.kyoto.jp/>

編集 学校教育課内
「学校教育広報」
編集委員会

宇治市学校給食センターの整備について



宇治市学校給食センター完成予想図

令和8年4月からの中学校給食開始を目指して、現在、宇治市五ヶ庄三番割に、宇治市学校給食センターの整備をすすめています。

センターには給食を調理する機能に加え、調理の様子を見ることができる見学通路等も設ける予定です。

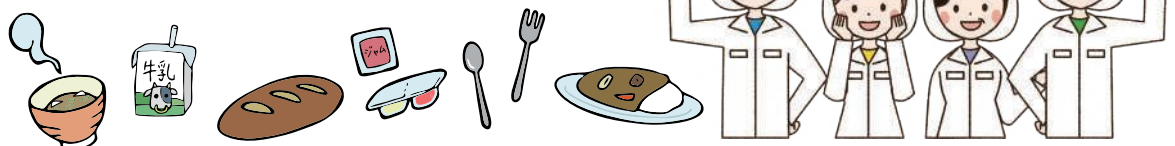
給食センターの完成と中学校給食の開始をぜひ楽しみにお待ちください。



学校給食に対する市補助について

食料品価格の高騰が続いておりますが、これまでの小学校給食の内容を維持するとともに、保護者の皆様のご負担を1食あたり240円に据え置くため、令和4年度より宇治市から補助金を受けて実施しています。

引き続き栄養バランスのとれたおいしい給食を実施してまいります。



急募 宇治市立幼稚園、小・中学校の講師登録者募集中!

講師登録は随時受け付けています。迷っている方も、まずはご連絡ください。

【お問い合わせ先】宇治市教育委員会教育総務課 教職員係

直通電話 **0774-20-8755**

メールアドレス: kyouikusoumuka@city.uji.kyoto.jp

先生の仕事に興味があるんだけど...



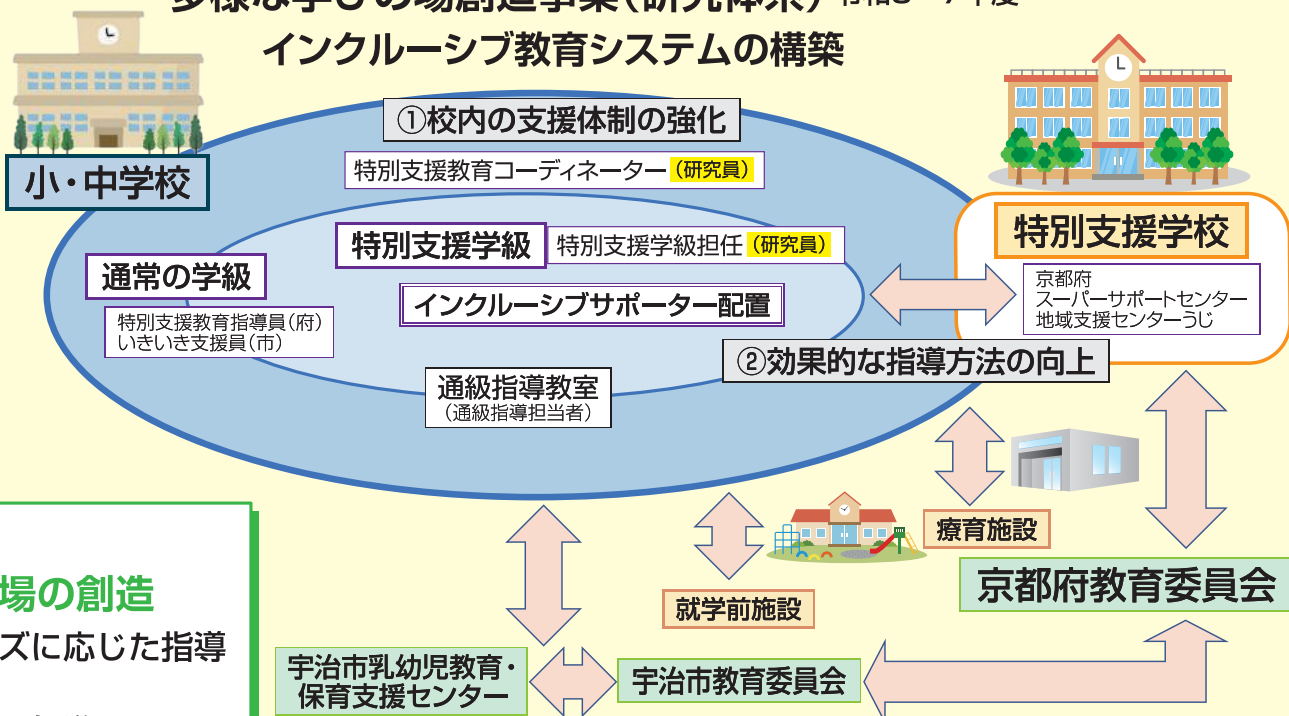
フルタイムでなくても大丈夫かしら?

令和6年度 研究指定校紹介

多様な学びの場創造事業／榎島小学校、北榎島小学校、榎島中学校

令和5年度から令和7年度まで、榎島中学校ブロック(榎島小学校、北榎島小学校、榎島中学校)にインクルーシブサポーターを配置し、「多様な子どもたちが等しく学べる環境をつくるため」の実践研究を行っています。

多様な学びの場創造事業(研究体系) 令和5～7年度 インクルーシブ教育システムの構築



研究内容

- ①多様な仲間が共に学ぶ場の創造**
 - 一人ひとりの個性やニーズに応じた指導の確立
 - 共生社会への相互理解への促進
- ②合理的配慮を提供するための校内支援体制の強化**
 - 児童生徒の実態把握と有効なアセスメント
 - 効果的な支援体制の構築
- ③多様な教育ニーズに対応するための効果的な指導方法**
 - 特別支援学校との連携による特別支援教育の指導力向上

多様な学びの場創造事業研修講座開催

研究内容を宇治市内小中学校へ広げるため、教員を対象に、研究指定校による公開授業と研究協議を行いました。



令和7年1月22日(水)
榎島中学校



令和7年2月20日(木)
北榎島小学校



令和7年2月25日(火)
榎島小学校

第20回「宇治市子どもの安全な生活を守るネットワーク会議」

令和6年12月5日(木) 宇治市生涯学習センター第1ホール

本市では、毎年7月10日から19日、12月10日から19日を「市民安全・安心推進旬間」と定め、子どもたちの安全を含めた地域の安全を再点検する機会としています。その一環として「宇治市子どもの安全な生活を守るネットワーク会議」は、家庭・学校・地域が共に手を携えながら、地域ぐるみで子どもの安全を守る取組として、継続して実施しています。今回の会議では、京都府宇治警察署から非行少年の現状等についての講演と、本市教育委員会から宇治市小中学校の生徒指導の状況についての報告を行い、宇治市立各幼稚園・学校関係者、PTA・育友会関係者、各学区安全管理委員会の代表者等の参加がありました。



「ふれあい教育相談」

対象
小・中学生の皆さん
保護者の皆さん
電話でもメールでも
お気軽にご相談ください



メールはこちらから

電話 0774-21-1890 平日の午前8時30分から午後5時15分まで メールアドレス k-soudan@city.uji.kyoto.jp

『宇治市の教育だより』は、宇治市のホームページから閲覧することができます。

宇治市ホームページ <https://www.city.uji.kyoto.jp/> キーワード検索 宇治市の教育だより 検索



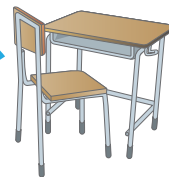
宇治市小中一貫教育推進協議会委員による視察から

小中一貫教育推進協議会は、本市の小中一貫教育の取組を総合的に推進することを目的に学識経験者、小・中学校保護者代表、地域関係団体代表、小・中学校関係者代表で構成しています。本協議会は定期的開催され、宇治市小中一貫教育の取組について協議するほか、各中学校ブロックの取組や合同研修会、授業の様子を視察しています。本年度は、西小倉中、西小倉小、大開小、木幡中、黄檗中に委員が分かれて視察を行っています。

西小倉中学校ブロック



西小倉中学校ブロック教職員による、小中一貫校開校に向けたワーキンググループでの協議



「西小倉中学校ブロック」の視察より 委員の感想

4校の先生方が、それぞれのテーマに沿って真剣に議論されている姿から、新しい学校をつくっていくんだという意識付けがなされていると感じました。その内容から、本市で取り組んできた小中一貫教育の意義やあり方を再構築する機会となること、おおいに期待されるところです。ここでの成果が、宇治西小倉学園での教育の基盤となることはもちろんですが、内容に応じて、他の中学校ブロックにもぜひ広げていただきたいと思います。

広野中学校ブロック 大開小学校

中学校1年生による、小学校1年生への絵本の読み聞かせ



「広野中学校ブロック 大開小学校」の視察より 委員の感想

教室に入ると温かい雰囲気の中、中学生が小学生に読み聞かせを行っていました。真剣に聞いている、顔、顔、顔。読み終わった後は、小学生は余韻に浸っていました。中学生が本、紙芝居の内容のクイズを出すと、小学生は大喜びし、楽しみながらも真剣に答えていました。中学生がやさしい笑顔で小学生に問いかける様子を見てみると、なんて純粋な中学生だろうと思いました。終わりに全員が教室に集まると、1年生は、「楽しかった!」「ありがとうございました!」と言っていました。時間が効果的に使われ、価値のある結果や学びが得られたからこそこの言葉だと思えます。



第3回 「地域や社会、みんなで子育ては可能なのか?」

シリーズ「子どもの育ち」

赤ちゃんは、生まれてから、体重が増え、身長も伸び、日々成長していきます。また、笑つようになり、物を握り、言葉を発するようになり、目覚ましい変化を見せます。出生から時間が経ち、養育者(親)の手を借りながら育っていくわけです。

それでは、親はどのようにして親として育つのでしょうか(今回は、子どもを育てる大人を「親」とします)。もし、18歳で成人したら、親としての機能を持つのでしょうか?もし、妊娠したら、親になるのでしょうか?

色々な考え方があると思います。日本では、子育ては女性の方が得意といった印象や、子育ては生物学的家族もしくは法的家族がするべきものという印象が強かったりします。それは、果たして本当なのでしょうか。

このコラムでは、子育てつまり、親的な養育行動はどのように成長するのかといった研究を紹介し、子育ては親にしか背負えないものなのかについて考えてみたいと思います。

まずは、脳と養育行動の関係性について紹介します。親的な養育行動が現れる時には、泣いたり笑ったりといった子どもの感情を察知する脳の部位(扁桃体など)、環境に危険はないかといった子どもの置かれた状況を推測する脳の部位(上側頭溝、腹内側前頭前野など)が活発に活動します。アブラハムらの研究(1)では、子どもと過ごす時間が多いほど、養育行動が現れる時に活発になる子どもの感情を察知する脳と、子どもの置かれた状況を推測する脳のネットワークがつながりやすくなることが分かりました。この結果は、親的な養育行動の活発化は、「生物学的な性別や妊娠・出産経験で

はなく、養育経験によることを示しています(2)。また、男性においても、パートナーの妊娠・結婚・養育の経験に関わらず、養育行動を司る脳機能を潜在的に持つっており、間接的・疑似的でも養育体験をすることで、この脳機能が発達していくことが分かっています。これらの研究では、養育経験の積み重ねによって親としての脳や心を育んでいくことが示されています(2)。

長々と書きましたが、核家族が中心の現代の家庭においては、子育てに対する親の負担が大きく、かつ、「親なんだから」といったプレッシャーも相当感じやすくなっていると思います。もちろん、子どもの成長の中で親が果たす役割は大きいのですが、子育ては親だけが背負うものなのでしょうか。性別・結婚経験・育児経験に関わらず、間接的・疑似的であっても養育体験を積み重ねること「親」として成長でき、部分的に親機能を果たすことは可能であることが多くの研究で証明されています。様々な課題があり、実現するのは難しいのが現実かもしれませんが、地域や社会で子育てをしていくことは、脳の機能的には可能なように思われます。

(1) Abraham, E., Hendler, T., Shapira-Lichter, I., Kanat-Maymon, Y., Zagory-Sharon, O., & Feldman, R. (2014). Father's brain is sensitive to childcare experiences. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 111, 9792-9797.
(2) 等々力花歩(2024)「日本の育児をめぐる現状と課題解決に向けた展望」発達科学の観点から、京都大学大学院教育学研究科紀要 第70号:219-232

My school pride ～私たちの学校自慢～

宇治市立平盛小学校 今年度、創立50周年を迎えました

平盛小学校は、宇治市内の19番目の小学校として、昭和50年4月に開校しました。府内でも最大規模である府宮西大久保団地の建設にあわせて開校し、地域に根差した学校として、温かいご支援を受けながら歴史を積み重ねてきました。

昭和57年4月に「日本語教室」を開設し、帰国外国人児童理解教育や国際理解教育に力を入れて取り組んできました。特に平盛小学校の特色でもある「龍舞」は、高学年を中心とした独自の伝統的な活動として、大切に受け継がれてきました。



創立50周年記念式典 オープニングでの「龍舞」

平成8年4月に、余裕教室を活用した「平盛デイサービスセンター」が併設され、児童と地域の高齢者との交流も盛んになりました。

令和4年から、宇治市でコミュニティ・スクールの取組が本格的に実施され、同年10月1日に「平盛小学校地域学校協働本部」を立ち上げました。学校が地域から支援を受けるだけでなく、学校と地域が「協働」して様々な行事や取組を行っていく形へと発展しました。今まで以上に互いの関係を強固なものにし、地域に根差した学校、地域とともに歩む学校として、新たな歴史を刻むことになります。

創立50周年の大きな節目を迎え、これまで積み重ねてきた歴史と財産をしっかり受け継ぎ、次世代を担う「もりっ子」たちが、夢や希望を持ち、未来をたくましく生き抜く力を身につけられるよう、日々の教育活動の充実と小中一貫教育の推進に一層努力していきます。



創立50周年記念式典での全員合唱の様子

宇治市立三室戸小学校 創立50周年を迎えました

三室戸小学校は、昭和50年に宇治小学校と菟道小学校より分離開校しました。今年度は、創立50周年の節目を迎え、子どもたちの「こんなことをやってみたい!」の思いを形にしていける活動を目指し、『自分色にかがやこう! 創立50周年記念』をスローガンに掲げ、学校・保護者・地域が連携、協力して様々なプロジェクトに取り組んできました。

三室戸小学校創立50周年記念プロジェクト

「こんなことをやってみたい!」
みんなの声をカタチにして
1年間のプロジェクトを
進めてきました

記念横断幕

みんなと一緒に手形押し
創立50周年記念横断幕を作成しました

三室戸小学校キャラクター「ミムッチ」

記念図書選書会

体育館に並べられた1000冊の本
あの本も読んでみたい この本も読んでみたい
3枚のしおりを持って 読みたい本を選びました

記念航空写真撮影

みんなで一緒に空に向かって
「飛行機が来た〜! バイバーイ!」
校庭に三室戸小学校キャラクター「ミムッチ」を作りました

記念Tシャツ

記念横断幕のデザインをプリント
押した手形の色に合わせたTシャツ
いろとりどりの七色の虹を着て運動会

記念プール

プールにSUPボードを浮かべてパドルリング
参加したみんなが特別な体験を楽しみました

記念デザート

自分たちで考えた特別な
パッケージデザインカップ
宇治抹茶を使ったジェラードを給食で食べました

記念学校環境整備

中庭のスペースが人工芝にチェンジ
上靴で行き来できる
フリースペース

みんなの
しば広場

これまでに築いてこられた伝統を引き継ぐだけでなく、さらに、伝統を積み上げていき、良き校風を今後も吹かせていきます。これからも三室戸の地で学び・育ち・愛された子どもたちが自分らしく輝きながら、地域・社会に貢献し、世界へと発信していけるよう、子どもたちの未来につながる教育活動を進めていきます。